

品目：すいか

環境こだわり農産物の基準(5割以下の基準)

化学合成農薬(延べ使用成分数) 6成分以下(露地秋冬)

化学肥料(窒素分量) 10kg/10a以内(露地秋冬)

技術体系例 すいか

生育ステージ	すいか																				
	作付前	育苗準備	育苗			定植時	定植	生育期間中						生育後期(7月)							
防除時期	作付体系	2月	3~4月			5月	定植時	全般			生育初期(5月)			生育中期(6月)	生育後期(7月)						
防除方法・使用資材・薬剤名等	ほ場ローテーション	床土の蒸気消毒	無病培土の利用	抵抗性台木	防虫ネット	購入苗の利用	殺虫剤	マルチ被覆	捕殺	病害株の引き抜き	不織布のべた掛け	トンネル被覆	殺虫剤	敷きわら	殺虫剤	殺菌剤	ほ場周辺の草刈	殺菌剤	溝さらえ	殺虫剤	
立枯性病害	★	★	★			★				★											
つる割病	★			★																★	
つる枯病																●				●	
炭疽病																●				●	
疫病	★							★	★					★		●				●	★
ウリハムシ					★					★	★	●					★				
アブラムシ類					★			★		★	★	●		●							
タネバエ					★					★	★										
ハダニ類													●								●
ネキリムシ類							●		★	★											
(例)使用農薬							ダイアジノン粒剤5						マラソン乳剤		アグロスリン乳剤	ジマンダイセン水和剤		ジマンダイセン水和剤			コロマイト乳剤
化学合成農薬成分数							1						1	1	1		1			1	

注) ●: 薬剤防除対象病害虫、★: 天然資材または耕種的手法

農薬の登録は随時変更があるので、農薬の使用にあたっては、必ず農薬ラベルを確認し適正に使用する。確認する。

* 印のものは、登録の対象害虫等が限られているので登録を確認する。

ほ場周辺は除草剤を使用せず、草刈機による管理またはグランドカバープランツを植栽する。

病気 **炭そ病** (たんそ病)

発生しやすい時期

6月頃～秋頃

原因（発生要因）

- ・ おもに前年の被害株により発生します。
- ・ 窒素が多いと病気が出やすくなります。



葉に現れた症状

対策（減農薬技術）

- ・ 一度発生すると防除が難しいので、予防防除を行います。
- ・ 窒素をやりすぎないように、適切に施肥を行います。
- ・ 育苗中は水をやり過ぎないようにします。
- ・ 敷きワラやポリマルチ等によって、地表からの雨滴のはね上がりを防ぎます。

病気 **つる枯れ病**

発生しやすい時期

6月頃～7月頃

原因（発生要因）

- ・ おもに前年の被害株により発生します。
- ・ 気温が高く、雨が多く、湿度の高いときに発生しやすい病気です。
- ・ ほ場では梅雨明け頃に多発します。
- ・ 風通し、日当たりの悪い畑や、生育がおとろえた場合に発生が多くなります。



対策（減農薬技術）

- ・ きゅうり、メロンなどのうり科野菜で発生するので、こうした野菜との連作を控えます。
- ・ 日当たり、風通し、排水のよい畑に栽培します。
- ・ 敷きワラやポリマルチ等によって、地表からの雨滴のはね上がりを防ぎます。
- ・ 病気にかかっていない苗を植え付けます。
- ・ 株元の葉をつみ取り、風通しをよくします。

害虫 **ハダニ類**

発生しやすい時期

8月下旬頃～10月中旬頃

原因（発生要因）

- ・ 周辺雑草地からの侵入、苗による持ち込みなどから発生します。
- ・ 気温が高く、乾燥しているときに発生が多くなります。特に、梅雨明け以降の発生が多くなります。

対策（減農薬技術）

- ・ ほ場周辺の雑草からうつってくるので、あらかじめ除草します。
- ・ 苗からの持ち込みに注意し、必要であれば苗のうちに薬剤防除をします。定植後の防除に比べて効率的です。
- ・ 卵から成虫になるまでの期間が短い（気温25℃条件では、約10日）ので、発生すると急激に被害が広がる可能性があります。